

2009年9月18日

韓国の最近の自転車業界の動向について

9月10日(木)と11日(金)に韓国を訪問し同国業界の動向を調査したので報告する。

1. 韓国自転車協会の訪問

訪問日時：2009年9月10日12時

同協会はソウル市中心部のビルにある。会長には今回の訪問先の選定と面談のアレンジをしていただいた。ソウルバイクショーの主催団体でもあり、今回はそれについての話を中心に伺った。

同展示会は今年から知識經濟部がスポンサーとして加わり、小額だが資金援助も受けられることになった。出展企業数は前年比20%以上増加することが予想されている。それに伴い展示場所もCOEXセンターの2階から1階に移動する。そのセンターは市中心部にあるので参観者にとって交通の便は良いが、ただ、来場者の試乗できるスペースがないことが唯一の難点となっている。今年のショーは12月4日(金)から6日(日)まで開催されるが、各国業界要人も出席予定である。

尚、海外に移転した自転車製造業の国内回帰のために韓国関税庁もいくつかの自転車ビジネス支援措置を講じている。そのうちの 하나가外国の展示製品が通関前保税扱いとなる「保税展示場指定措置」というもので、韓国の部品の輸入関税率は8%、完成車は5%だが、展示会場内では展示に関係するものなら設営・運営機材なども含めすべてに対し関税が免除されることになったので、出展に関わるコストが軽減できる。同時に手続きが簡単になり、広範囲かつ高価格帯の製品の展示が容易になった。但し、展示製品を販売した場合は税金を支払う必要がある。



韓国自転車協会はこのビルの3Fにある。

2. 韓国自転車研究組合の訪問

訪問日時： 2009年9月10日14時

同組合はソウル中心部から車で約1時間のスポーツ訓練施設を併設した韓国スポーツ科学協会の施設の中にある。2008年11月「産業技術研究組合育成法」に基づき、自転車の研究開発を通じた自転車産業の育成を目的とする非営利特別法人として認可を受けた団体である。団体名はこの法律名に由来する。以下は面談の概要である。



韓国自転車研究組合はこの建物の2階にある。

1999年から民間企業と共に研究活動を行ってきた現理事長が発起人となって設立した。自転車研究組合を作ったのは、自転車産業は未来産業であり、自転車を除いては生活できない、生活を継続できないという考えから自転車を研究し、自転車を育成する必要があるということからである。

現在の会員数は31で、その内訳は韓国スポーツ科学協会、国立ソウル科学技術大学の二つの研究機関、メーカー25社、企画、販売会社3社。

主な活動内容：

- ①製品のデザイン、開発
- ②製品の性能評価

- ③展示会への出展などの販売支援、市場調査
- ④技術セミナー、フォーラムの開催(隔月開催)
- ⑤政府の自転車に関する政策への提案、政府の関係機関との調整

現在取り組んでいる主なプロジェクト:

- ①公共自転車の規格の標準化と試験
- ②国内自転車産業育成のための調査研究
- ③自転車変速機、アルミニウムフレーム及び電動自転車のデザインと開発

自転車産業を育成する必要があるという機運は前政権の時代からあった。韓国政府は現在、様々なグリーン産業政策を掲げているが、その中でも主な政策の柱が3つある。それらは①風力、②太陽光、そして③自転車である。①と②は短期間では成果が得られないことから自転車産業を今特に力を入れて育成しようというのが政府の考えである。

但し当組合の設立は政府の現在の政策を予想してのことではなく、自転車産業の可能性と潜在力を自ら予想したためである。設立資金は政府とは関係なく、純粋に民間企業が資金を出し合った。政府から委託された研究の対価については、多少政府から金銭を受け取っている。

当組合は政府に対して産業育成のための政策を提案しているが、自転車産業の方向性を提示するものであって、逆に政府から研究の方向性に指示を受けることなどはない。あくまで独立した機関として活動を行ってゆきたい。

自転車産業を育成しなければならないというのは、時代の流れであり、韓国と日本がその技術力に基づいて協力すればお互いの利益は多いとの考えから、日本と韓国が長期的なビジョンに基づいた協力ができることを希望している。

また、今後の韓国自転車産業の動向については、現在韓国と欧州連合(EU)間で交渉中の自由貿易協定(FTA)が締結合意に至ると、EU内の工場が韓国に移転するのではないかと見ている。

更に今から2ヶ月ほど前、ソウルから北に45キロ、休戦ラインに近い北朝鮮の都市であるケソン(開城)工業団地に組合として実地調査を行った。調査の目的は、今は衣類や靴などの軽工業製品が中心だが、他の産業、製品も適合するかどうか、その可能性を探ることだった。調査の結果、制度面や労働者の質といった観点から、一部に不安定な要因があることが懸念されるものの、自転車産業を育成するのに有利な地域であるとの結論に達した、との話であった。

3. 三千里自転車の訪問

訪問日時: 2009年9月10日16時

同社がソウルから南に約20km、車で40分の京畿道儀旺(ウィワン)市で建設を進め

ている工場と物流センターの土地は、政府から多額の支援を受けて購入したものである。韓国国内で調達できる部品は現在 10%程度しかないことなど国内生産再開に当たって様々な課題が山積し、社内ではそれらの対応に忙殺されている模様であった。

面談を予定していた購買担当者には長引いていた会議を中座してもらったが、今回は詳しい近況を聞くことができなかった。12月に開催される展示会で再度面会することになった。



三千里自転車本社ビル



ビルの1Fにはコーヒー店、2Fには自転車が陳列されている。

4. 財閥系企業の訪問

訪問日時： 2009年9月11日10時

ある財閥系企業が新たに完成車小売販売事業を韓国国内で開始するという事なので訪問してみた。

この会社は既に国内に多くの店舗の販売チャンネルを有し、過去20年以上消費者を直接対象としたビジネスを行ってきた実績がある。

自転車について担当者は「とりあえず小売を中心に行うことになっている。韓国自転車市場の将来性は高いが、従来のプレーヤーたちは消費者のニーズを満足させてい

ない。今まで培ってきた経験、ノウハウ、豊富な資金力をもってすれば必ずやマーケットリーダーになれるだろう」と自信を覗かせていた。

自転車業界に明るい人材をスカウトし、同社の自転車部門の陣頭に立って指揮させている。今後の同社の事業展開が注目される場所である。



自転車専用道が徐々に整備されつつある。

以上
(上海事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。